



浅川熱処理株式会社
代表取締役

齊藤 基樹氏

(さいとう もとき)

徹底した管理体制が未来を変える

Company Profile

浅川熱処理株式会社

所在地：山梨県中巨摩郡昭和町築地新居1584-2
TEL：055-275-5231 FAX：055-275-5408

事業内容：連続ガス浸炭焼入焼戻し、真空焼入焼戻し、ホモ処理

エミダス会社情報：http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php? 68962



徹底した保全活動により停止時間を激減させた



オートマチックミッション スリーブの焼入焼戻し

確かな信頼性を誇る

浅川熱処理はアルミから希土類磁性材料まで高品質に対応し、エンジンバルブ関連部品の浸炭焼入焼戻加工等得意とする熱処理専門メーカーである。国内外において大きなシェアを占めているホイールボルト・ナット等、同社の生産管理体制は群を抜いており、各大手自動車メーカーの認定工場としても名高い。装置産業として、徹底した設備保全活動を極め、熱処理炉の停止時間は、前年実績の10%と大幅に激減させている。

品質第一主義

同社は“品質第一”を常に意識し、早くからその経営方針を全従業員に徹底してきた。オイルショックの時期には土日の稼働を止めざるを得なくなり、極端に受注量を減らしたものの、その時間を利用し、時代に先駆けて品質強化のための勉強会に勤しんだ。この結果、日本工業規格表示許可工場の資格を取得し、後にはISO9001、14001の認定へと実を結ぶことになる。

再発防止体制の徹底

同社では過去の品質・保全トラブルを解析し、再発防止策の強化を行っている。

「グラフは作り方によって統計がまったく違う結果がでる。まとめかた、表現によって本当の原因がぼけてしまったり隠されてしまったりする」と、齊藤社長は語る。そのため品質工学・管理図等の活用

により統計の手法にこだわり、過去の事例から傾向管理をして不良の原因を浮き彫りにし、改善の指示を徹底することに務めている。早めの予防保全を行うことで機械を止めない。その時間は単に停止しなかっただけでなく売上げも上がり、お客様にも迷惑をかけないという成果に繋がるのである。

また品質向上のため現場の不具合をいかに引き上げ、改善するか——同社では常に作業中の見目を育てることを意識づけている。不具合の原因や生産・品質管理における情報はどんな些細なことでも共有し、より効率化するための提案をする機会を月に何度も重ね、品質の向上のため全社が一丸となっている。さらに対策の有効性評価も行い、その功労に重きを置いている。こうした管理体制を維持することで、高品質・低コスト・短納期の追求に日々余念がない。

次世代育成への熱い思い

東部金属熱処理工業組合に所属し、技術委員会の担当副理事長を務める齊藤社長は、熱処理業界全体に対しても、先を見据えた人材育成の強化を目指し、2つの講座に大きく携わる。

2008年に新設された東京工業大学の中堅技術者向け講座では、金属熱処理のスーパーマイスターを作るべく、セミナーや工場での研修も含めたカリキュラムや教材の作成に協力している。2年間で費やし、20名ずつ育成する予定である。

また同じく新設開講したばかりの厚生労働省支援の実践型人材育成システムにおいては、職場内訓練(OJT)と座学に400時間かけて新入社員を育てるプロジェクトに携わってきた。高度化が進む最先端技術の習得と熟練技能者の技能の継承は、次世代へ向けられた大きな課題に対応している。

航空産業への挑戦

自動車産業の要求も厳しくなり、同社ではISO/TS16949(自動車生産及び関連サービス部品組織のISO9001品質マネジメントシステム)の年内取得に挑み、早くもメディアからの注目を集めている。航空機産業に当てはまるほど高度な管理手法を要求されるこの規格をクリアすることで、お客様の安心と信頼をより大きく獲得するに違いない。これから加わる新たな産業として、航空機業界からの受注見込みが予想される。

また材料の軽量化、省エネ、環境への配慮へと各業界が移行期にある今、それらに適応した熱処理が求められており、

同社では航空機部品によく利用されるアルミ合金、磁性材料や、磁性レアメタルの熱処理を視野に入れた新技術の開発を進めている。

このような技術が息を吹き込んだ国産飛行機が大空を飛び交う日がくることを、日本中が待ちわびている。大きな夢と期待を担った浅川熱処理は、今日も新たな可能性へと歩み続ける。